

形質良好で凍雪害・獣害に強いキリ「玉植苗」を開発

福島県林業研究センター 林産資源部

部門名 林業

担当者 手代木徳弘

I 新技術の解説

1 要旨

キリの植栽管理においては凍雪害・獣害防止等に多大な労力が必要であり、また高品質のキリ材を生産するために2段仕立て等の特殊技術も必要となっている。そこで、40cmのポットで生育後に地上部を切除した苗である「玉植苗」を開発した。玉植苗は植栽時（秋植え）には地上部が無いことから、もっとも獣害や凍雪害を受けやすい植栽当年冬期の獣害・凍雪害の防止措置が不要である。かつ初期成長が良く、1成長期後の形状も良好であることから、高品質の桐材の生産が可能である。

- (1) 玉植苗、実生ポット苗、分根ポット苗の樹高成長や苗の形状を比較したところ、植栽1年後の調査では形状は玉植苗で良好な個体が多かった（図4）、樹高平均も玉植苗が多かった（図5）。
- (2) 玉植苗は初期成長が良く、苗の形質も良好で、1年目に樹高4mを超えることから、仕立ての目標となる節や曲がり等欠点の無い3m以上の一番玉が容易に生産可能である。

2 期待される効果

- (1) 桐材の新用途が増えているなか需給も逼迫しており、植栽後の管理が容易な玉植苗を利用することで栽培面積を拡大することができ、中山間の林業所得向上に寄与できる。
- (2) 高齢針葉樹林の更新が重要課題となっているが、里山に近い部分にはキリ栽培適地もかなりあり、植栽初期の管理に特殊な技術等が不要となれば、スギやヒノキに比べて経済性も高いことから、再造林樹種の選択枝になりえる。

3 適用範囲

- (1) 会津地方を中心とする県内の再造林地、耕作放棄地
- (2) 比較的傾斜が緩く、土壌条件等が良好で道路から至近の再造林地、耕作放棄地

4 普及上の留意点

- (1) キリ苗は全般的にスギ苗等と比べ大型であり、運搬等に労力がかかること、及び、近年のキリ植栽は重機を使用することが多いため、植栽地は道路から至近にあることが望ましい。
- (2) 土壌深60cm以上、礫質又は砂質土が植栽適地となる（参考資料（4））。

II 具体的データ等



図1 玉植苗



図2 玉植苗の植栽状況

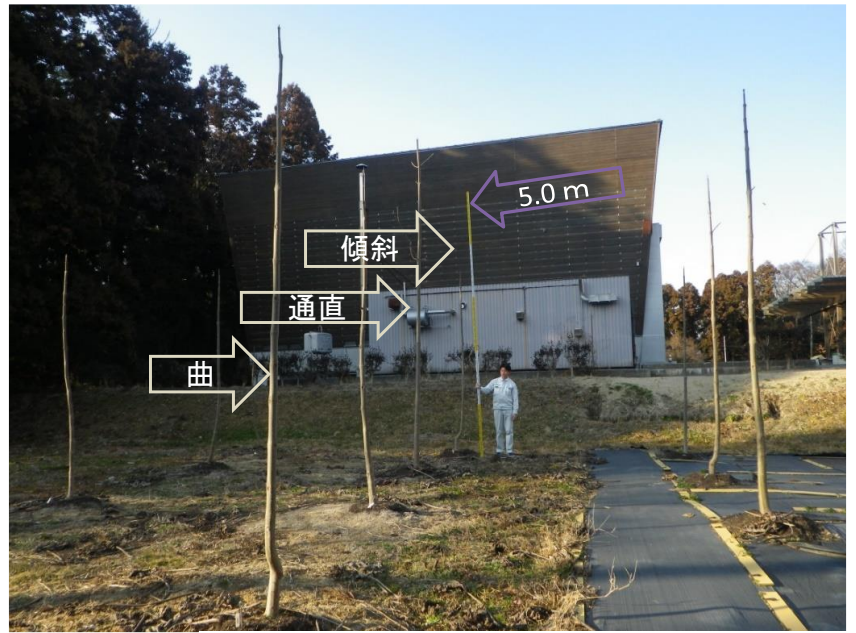


図3 植栽1年

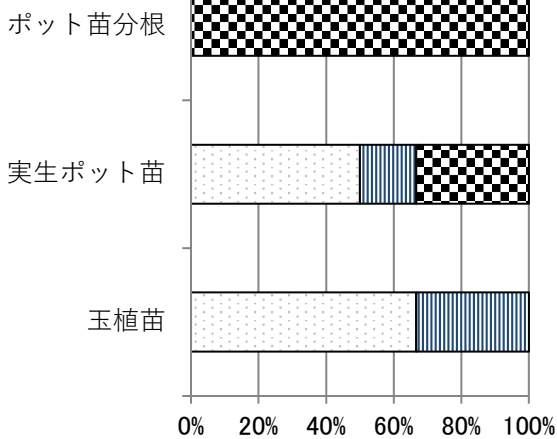


図4 植栽1年後の苗種別の各形質の出現割合
(各苗種 6本)

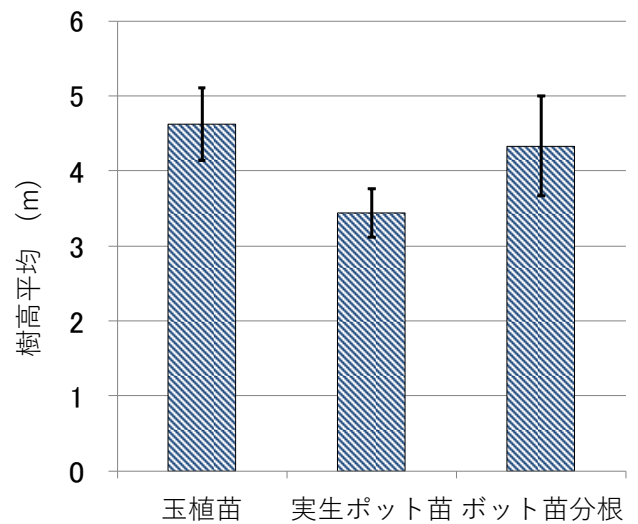


図5 植栽1年後における苗種別樹高平均値
バーは標準偏差

III その他

1 執筆者

手代木徳弘

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27～令和元年度
- (2) 研究課題名 キリ育成技術の確立

3 主な参考文献・資料

- (1) 長谷川孝則・竹原太賀司(2016),キリ健全苗生産技術の開発,福島県林業センター研究報告第48号.
- (2) 熊倉国雄,桐栽培総論,株式会社東洋出版,昭和56年.
- (3) 蔵王タイムス131号～252号,蔵王新聞社,昭和28年12月～昭和31年1月
- (4) 熊倉一雄,有利なキリ栽培法,株式会社朝倉書店,昭和34年